

生命尊重ニュース REVIVAL

主はプールサイドを走り回っていたはずらしもなく、誰でも良かった。プールサイドに座っている大人しい子をポー

長男が亡くなって10年後、次男は、今日は水泳大会だと、張り切って家を出ました。そして、大会が始まる時に事件は起こった。先生が席をはずされた時、わんぱく坊

どこまで人を許せるか

みんなちがって みんないい②

のらねこ学かん館長

塩見志満子



と押した。押された子どもはセメントに頭をぶつけて下に沈んだ。そして、その子は二度と浮き上がらなかつた。友達みんな飛び込んで、ひきあげてくれた。女の子はバスタオルに寝かせてくれて、私が小学校に呼ばれたら、子どもが死んでおりました。また地獄やぞと思つた時に、母親の私は「誰が犯人だ」「誰が受け持ちだ」「誰が校長だ」「なぜここに来て謝らないか」と思つた。そしたら夫が来て「早く帰ろう」。連れて帰って座敷に寝かせた。その時も私は、人を恨む気持ちだけを支えに息子の横に座っていた。

と大泣きしながら私に言うた。私は承服できなかつた。「殺人を犯した子どもの父親の身になってみいや。わしらは息子の事を忘れることができて、ずっと一生その子を育てないかん。だから辛抱して、学校も友達もみんな許してやろうや」私が、それであるの学校はいい学校になるやうか？と言つたら、夫は言いました。「お前は明日どうなるかわかるか？子どもが朝、『行つてきます』と手を振つた時、この子が死んで帰るなんて思つたか？人はいつ死ぬかわからない。わからないからこそ今、力いっぱい生きないくまいが。わしら二人にできることは犯人を見つけて出さないで、学校も友達も許してあげることじゃないか？」男は強いよな、私は何て情けないんやろか、と思つた。私は、「父ちゃんが言うんなら仕方ないけん」と、学校も友達も許した。(つづく)

ります。それは「死んだ人のことを思い出すたびに、天国にひとつ花が咲く」というような文章を読んだのです。この一文に出会つた時、とても嬉しかった。私は、なぜ天国に花畑があつて花が一杯咲いているのだろうと思つていました。「一回思い出すと一つ花が増える」そう考えるだけで、亡くなった人の事が寂しくなくなります。そして、もつともつと思ひ出そうと……。

「二度とない人生だから」の詩の一節一節は、父・真民の日々そのものです。この詩の通りの生活を送つていました。そのように私達も、本当に大切なものを求め、美しい心を持ち、心豊かな二度とない人生を送つてゆくことが出来たら、どんなに素晴らしいでしょう。そのためにも、一日一日を大切に過ごして行きたいと思ひます。

最後になりましたが、この1年間「父・坂村真民の人生」をお読み下さいました皆様様に心から感謝申し上げます。

愛媛県生まれ。坂村真民の末娘。全国の真民の詩碑建立等に同行し、平成24年、愛媛県砥部町の坂村真民記念館設立にも尽力。